



Active stage at HK

～東海南中学校だより～ 令和4年 卒業記念号



「今を生きる！」～卒業式



3月7日、第52回卒業証書授与式が挙行されました。コロナ感染症対策のため今年も来賓の方々のお出席はありませんでしたが、保護者の方々（1名限定）と在校生、職員で卒業生の門出を祝いました。

一人一人に卒業証書を授与した後、私の式辞では「私たちには『今』というこの瞬間しかありません。時には「あの頃はよかった」と思い出に浸るのもいいですが、私は「今が一番」と言える人生を送りたいです。（略）たとえ今は苦しくても、今を精一杯生きてい

れば、その瞬間が一番輝いているのだと思います。その瞬間の積み重ねが自身の未来を創っていくのです」と、「今を生きる」という言葉を送りました。

送辞では、在校生代表の田伏隆伸君が「責任感があり、いつも堂々としていた最高の先輩。僕たちも先輩方が創りあげてきた良き伝統を受け継ぎます」と決意を述べ、答辞では卒業生代表の川口凜華さん（写真右）が、3年間の思い出を振り返り、在校生には「『協力』を大切にしてください。自分一人でやるよりも、自分以外の人のお気持ちを思いやって心をつなぐことで得られる達成感や喜びはより大きくなります」とメッセージを送りました。

式中は終始ピシッとした緊張感が漂い、卒業生の頑張りとお成長を称え、お互いの感謝の気持ちが会場いっぱいにあふれていました。式後は在校生と



保護者・職員でつくった花道をくぐると、笑顔がはじけ元気一杯で学校を後にしました。卒業式は門出を祝う式であるとともに、在校生が伝統を受け継ぐ式でもあります。これまで卒業生が見せてくれた姿は、言葉や形ではなく、自然と在校生に染みこんでいると感じました。伝統はこれからも確実に受け継がれていきます。



15の決意 2年生立志式

卒業式の寒さとはうって変わ
り、春の暖かさに包まれた
3月15日。立志式が挙行さ
れました。

この日の主役は2年生。立志式は昔の元服にちなんで15歳の若者が、将来への決意や目標を漢字一字に託して決意表明する行事です。私からは、「言い訳をしない。自分で判断し行動すること」から、一人で行動することを勧め、「一人で強がらない。人とのつながりを大切に」から、できないことは人に頼り感謝の気持ちを大切に、と言葉を贈りました。一人でも行動でき、仲間とも

協力できることが、「稚心を去る」につながるのだと思います。

前田祐我君(写真左上)は、「介護の**護**、たすけるという意味。困っている人に手を差し伸べられるようなカッコいい大人になりたい」と笑顔で決意を発表しました。また、久保田美鈴さん(写真右上)は「**勝**」自分を甘やかす心に勝ち、目標を達成したい。他にも、「**決**」自分に必要なのは「揺るがない心」決断力です。「**聴**」人の話を心で聴く、「**企**」夢を実現するためにしっかり計画して行動できるように、「**飛**」羽を広げて飛びます！など、それぞれの思いを壇上で発表しました。先週3年生からバトンを受け取った2年生。稚心を去り大人への扉を開けようとしている姿が頼もしく感じました。

やりきった感と一体感 校内マラソン大会



16日、暖かな春の陽光があふれる沖野マウンド周辺コースで、校内マラソン大会が開催されました。10時に男子がスタート、5分後に女子がスタート。男子は3.5km、女子は2.5kmで、後半はひたすら上りという過酷なコースに挑みました。結果、男子は西岡健人君(写真左下)が優勝。2位に岡昂輝君、3位に橋爪兜馬君。女子

は表野未侑さん(写真右下)が優勝。2位に河村優那さん、3位に山本唯菜さんが入賞し、それぞれ金銀銅のメダルを獲得しました。しかも西岡君と表野さんは見事大会新記録を塗り替えました。順位にかかわらず、すべてを出し切り、全員が完走し笑顔でゴール。走り終わ

った後も、次々とゴールする子と一緒に走ったり声援を送ったりして、全力を出し切った「やりきった感」と、みんなでやり遂げた「一体感」を味わいました。この大会には今年も20人ほどの3年生がボランティアでコースの安全管理に活躍してくれました。3年生なくしてマラソン大会は開催できません。そんな3年生への感謝を忘れず、伝統となって受け継がれていくことでしょう。

